

社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

平成19年度第2回通常総会議事録

日 時 平成20年2月23日(土) 10時30分～12時30分
場 所 (財)ブルーシーアンドグリーンランド財団 会議室
東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル

1. 定 足 数 の 確 認

出席会員26名、委任状27名、合計53名。従って正会員現在数86名の2分の1を超えて第28条(総会成立)の定足数に達しており、本総会の成立を確認した。

2. 開 会 の 挨 拶 佐藤 精知夫 副会長

石原会長が公務の都合で出席が遅れているので、佐藤副会長が開会の挨拶を行った。

- ・ジュニアの育成が大切であるという共通認識から、JSAFがスポンサーを見つけて、JJYUと共に普及育成を実施して行こうという話し合いを進めている。
- ・最近少子化という事と平均的家庭の経済的マイナス等ジュニアを巡る環境が好ましくなく、サッカー、野球等のジュニアクラブも同様に会員の減少を招いているので、私どもヨットでも更なる工夫が必要です。
- ・JJYU役員は年寄りが多いといわれる事がありますが最近若い人も年々増えています。老人は歳を重ねるにつれ長い人生経験と知識、知恵、判断力等充実し、より子供たちの指導に適しています。即ちおじいさんの眼で見れるという事です。おじいさんは公平に子供を可愛がり、他人の子も自分の関係の子も区別なく愛する事が出来ませんが、若い人は時として自分の子供に目を向けてしまう事もあります。この可愛い子供達の面倒はおじいさんだから出来ます。全国のジージーワイユウ(JJYU)の指導者がそれをやるのだと思って皆さん協力して下さい。
- ・本年は和歌山のセーリングトレーニングセンターで全国大会を開催します。外国5カ国を招待して、トレーニングセンター開幕に合わせて行いますので外国セーラーとの友好を楽しみに多くのセーラーの参加を望みます。

3. 来 賓 の 祝 辞

(1) (財) B&G 財団、広渡英治専務理事(代理 姫野総務課長)

- ・毎年総会会場として当会議室を利用頂き感謝しております。
広渡専務理事が出張でどうしても帰って来ませんのでよろしくこのことでした。

(2) (財)日本セーリング連盟、河野博文副会長

- ・今年のJSAFの活動を報告させていただきます。
北京オリンピックの年という事で、山田敏雄オリンピック特別委員長の「ヨットをマスメディアのメジャーにしよう」という努力が実り、最近ヨット活動が新聞等報道に多く出るようになった。

アテネ大会にはヨット競技は7種目参加したが今年の北京大会は決まっているのが6種目で、レーザーラジアルとスターが決まると8種目になる予定です。オリンピック予選である世界選手権大会では選手みんなが緊張した良いレースで、メダルも可能性があるかと確信しました。

- ・ J S A Fとしては国内に唐津と和歌山にセーリングのナショナルトレーニングセンターを造り選手をサポートしていく計画です。
- ・ 今後のオリンピック選手はジュニアで育った選手から出てくる。キーワードはジュニア育成とローカル活動です。オリンピック選手の小松氏、関氏を地方のジュニアクラブに連れて行くと子供たちの目が輝いてくる。
- ・ J S A Fの会員が現在1万人位ですが年々減少している。以前の1万2千人位にしたいと思うので皆様のご協力をお願いします。

4. 議長選出

定款第26条により会長が議長を務めるところ出席が遅れている為、定款第14条の2により、佐藤精知夫副会長が議長に選出された。

5. 議事録署名人選出

定款第30条による議事録署名人選出は議長一任の議決により、以下の2名が議長より推薦され全会一致で選出された。

内藤 武夫 氏（鳥取県ジュニアヨット協会代表者）

田辺 文得 氏（山梨県山中湖村中学校ヨット部代表者）

6. 報告事項（その1）

（平成20年度事業計画書（案）、収支予算書（案）の説明を理解しやすくする為に、平成19年度中間事業報告及び平成19年度中間財務諸表を先に説明報告する事とした。）

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成19年9月末までの平成19年度中間事業報告書及び中間財務諸表について説明がなされた。

- ・ 今年度の主な行事は本日の通常総会と指導者研修会、去る2月に鹿児島で開催の「三ツ矢サイダーカップ九州大会」でほぼ終わりましたので、年間としてもほぼ中間事業報告書の通りであり、平成19年9月末迄の財務状況は中間財務諸表の資料の通りです。平成19年度事業報告書と財務諸表については6月の総会で改めて承認を頂きます。
- ・ 今年も加盟ジュニアクラブが減っている。各クラブからの「現況報告」もあまり提出されていない状況なのでクラブ運営で忙しいでしょうが是非ご協力をお願いしたい。
- ・ アビームコンサルティング(株)には、一昨年、昨年と全国大会への特別協賛を頂いたが、今後も引き続きご支援頂けることとなっています。以前からご支援頂いているエスピー食品(株)、第一三共(株)、大塚製薬(株)にも引き続き後援して頂けるので連盟財政は少しずつ余裕が出来つつありますが、引続き経費節減に努めて行きます。
- ・ ホームページも、ユースセーリングも内容刷新したので皆様ももつと活用し、掲載する情報を寄せて頂きたい。

7. 議案審議

1) 第一号議案 平成20年度事業計画書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成20年度事業計画書(案)の説明を行った。

- ・ 「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008」は和歌山県の和歌山セーリングセンターで「韓国、ロシア、ニュージーランド、アメリカ、シンガポール、オーストラリア、マレーシア、タイ等の中から5カ国」を招待して開催する予定。
- ・ 第28回日本少年少女オープンヨット大会、「東日本地区大会」が山梨県山中湖村ヨットハーバー、「西日本地区大会」が島根県安来市十神中海で開催予定。それぞれ各大会詳細は後ほど開催地の代表の方から説明を頂きます。
- ・ アサヒ飲料㈱からは、賛助会員は今年度も続けて頂けるという方針を伺ったがそれ以外の協賛は一昨年程の規模では出せない状況だと伺い、何とか1地域で行える規模程度でも出して頂けないか引き続きお願いしている。
- ・ 今年の大分国体よりセーリング競技にも中学生が参加出来るようになったので各ジュニアクラブ、中学校でも中学生セーラーの勧誘に力を入れて頂きたい。
- ・ お願いとして、事務局の負担を軽くする為、現況報告書、年会費等はなるべく督促しないで済むようにして頂きたい。

その後、議長より第一号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

2) 第二号議案 平成20年度収支予算書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成20年度収支予算書(案)について説明を行った。

- ・ 一般会計では、加盟クラブの減少で正会員であるクラブ代表者年会費の大幅減少と全国大会の参加者も減って選手登録料が減少。賛助会員も口数減となっている。和歌山での「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008」に参加する選手を増やす努力と、加盟ジュニアクラブを増やす努力をしたい。
- ・ 「ユースセーリング」にももう少し広告スポンサーをお願いし充実して行きたい。
- ・ マークブイは前年度で在庫を完売した。
- ・ 各大会に使うマークブイは毎年使えるように連盟で保管するようにした。
- ・ 収入規模を勘案し、管理費など支出を切りつめた収支予算書を策定した。

その後、議長より第二号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

8. 報告事項(その2)

1) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007の東京若洲大会実施報告について 昨年開催地、東京若洲の「夢の島ジュニアヨットクラブ」の近藤様より報告と参加へのお礼があつた。

- ・ 29チーム126名の選手が参加した。1日目はうねりが大きく風も強く十分なレースが出来なかったが、2日目は好天で満足な運営が出来た。

「夢の島、中央区、江東区」の3ジュニアヨットクラブを代表して、当大会が無事成功裡に終了出来たことにつき参加頂いたクラブへお礼申し上げます。

2) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008(和歌山大会)について

和歌山県セーリング連盟、山本理事長より、本競技会が開催されることになった経緯と宿泊ホテルのパンフレット等による大会会場、宿泊施設などの準備状況の説明が行われた。

当連盟全国大会担当小野理事よりスポーツ振興基金助成の申請をした旨報告された。

3) 第28回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)について:

山梨県山中湖村立山中湖中学校ヨット部代表者(山梨県セーリング連盟理事長)田辺文得氏と実行委員会事務局長(富士北稜高校教諭)岡英幸氏より、実施要項(案)に基づき説明、支援ボートの搬入についての注意と登録の説明がされた。

開会式場は山中湖老人福祉センターに変更する。

4) 第28回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)について

島根県隠岐ジュニアヨットクラブ代表者中西賢一氏と鳥取県ジュニアヨット協会代表者、当連盟理事内藤武夫氏より、実施要項(案)等に基づき、開催会場が島根県安来市で以前実施の米子より良い海面、会場であることと、参加賞に「安来のどじょうすくいキーホルダー」を考えている等準備状況の説明がされた。

5) 2008三ツ矢サイダーカップ九州大会(第6回九州ウインターカップ)について

当連盟安井常務理事より佐藤副会長、野村理事広報委員長と参加した旨報告された。

- ・ 鹿児島市で5年前から実施している冬の大会を三ツ矢サイダーカップ九州大会として共同開催した。山口県光セーリングクラブジュニアからの5名も加わって58名の選手が参加し、成功裡に終了した。

9. 会長挨拶

会議途中より石原会長が出席し、報告事項終了後に挨拶を行った。

- ・ 今年は既に先日鹿児島で冬の三ツ矢サイダーカップ九州大会があり、夏の全国大会は和歌山で行われます。オリンピックイヤーですから各ジュニアクラブの方々も忙しいと存知ますが総会に出席頂き有難うございます。
- ・ 近年社会全般に高齢の方が多くなりましたが、当連盟役員も高齢者が多く日頃活躍して頂いていますので、健康の為に皆さんでセーリングをしようと私が提案しました。日程案を連絡をしますので皆さん参加して下さい。
- ・ 会員の皆様の熱心な討議に感謝し、今年のご活躍を期待します。

10. 閉会の言葉

吉村事務局長より総会の終了を案内し、佐藤副会長より閉会の挨拶があり散会した。

(12時30分に終了。)

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は記名、押印する。

平成20年2月23日

議長（住所）

（佐藤 精知夫 自署）（印）

議事録署名人（住所）

鳥取県ジュニアヨット協会代表者

（内藤 武夫 自署）（印）

議事録署名人（住所）

山梨県山中湖村立山中湖中学校ヨット部代表者

（田辺 文得 自署）（印）